

る。

再編は、短期間にそう何度も実施できることではなく、「近い将来の課題」とするならば今から検討をしておく必要がある。

「近い将来」とは何時のことなのか。また、どういふ状況になる場合を想定してのことなのか。

【答】 大成中学校を当面の再編議論に含めない理由は2点ある。

1点目は、時間を要することになり、他の再編が先延ばしになる可能性があること。2点目は、御坊市や藤田地域の意見を集約していく必要があること。

しかし、町内の中学校生徒数が今後さらに減少を続け、地域や保護者からの要望や機運が高まってくれば、大成中を含めた再編も考えなければならぬ。



川原河小学校



笠松小学校



寒川第一小学校

総務文教常任委員会

統合をひかえる 美山地区3小学校の 現況を調査

7月13日(水)に、町立小・中学校の再編に向けた協議が進む中で、喫緊の課題である美山地区3小学校の現況について調査しました。

委員会町内視察レポート

○川原河小学校

校舎は築38年、生徒数は19名で5年後も20名前後の見込である。校舎は比較的きれいで、改修等の問題点は少ないと思われる。

○笠松小学校

校舎は築40年、生徒数は10名で5年後も10

名前後の見込である。校舎は、外壁の傷みが大きく、ランチルームに雨漏りの箇所がある。

取り組みの一環として、児童自らが栽培した野菜を産品販売所で販売している。

○寒川第一小学校

校舎は築45年、生徒数は11名で3年後は4名、5年後は2名の見込である。校舎等は問題ないと

思われるが、今後の生徒数を考えれば集団活動での教育面で心配される。

【意見】

美山地区3小学校については、生徒数の減少は今後も続き、統合は不可欠であり、スピード感をもって進めるべきである。

校舎については、環境や施設的にも川原河小学校を活用することが望ましいと考えられ、通学については、通学バスの運行は広域となるが、生徒の安全を最優先に検討されるべきである。

統合により、笠松小学校の取り組みのような小規模校ならではのメリットや特徴が失われないように、生徒や保護者の意見を十分尊重した学校運営が望まれる。



旧高津尾発電所内部

旧高津尾水力発電所を視察

9月22日(木)に、老朽化で解体方針が示されている、関西電力旧高津尾水力発電所の赤煉瓦の旧建屋を視察しました。

関西電力社員の案内で、外観から内部までを視察した。

発電所の歴史や旧建屋の構造などについて、英国から神戸〜日高港を経て輸入された赤煉瓦を使って、英国人技師の設計により造られた特徴的なアーチ型窓などの説明を受けた。

新発電所完成後、旧建屋は2014年まで事務所などに利用されていたが、老朽化が著

しく、現在は用途がなймаま倉庫のような形で残存してきた。

また、懸念される巨大地震で倒壊の恐れが大きく、隣接の変電設備被害など、重要インフラである発電所にとって大きなリスクである。

こうしたことから、旧建屋を解体して変電施設更新のために跡地を利用するという解体方針に理解を求めた。

【意見】

英国様式のレンガ造りで歴史もあり、景観も良い。このような建物は県内でも残っていない貴重な建物だとよくわかった。しかし、所有者の方針は解体の方向であり、残すにはやはり莫大な費用が必要で、国や県の支援を得られる方法等について検討を要するのではないか。

第24回 日高郡町議会親善ゲートボール競技大会に参加



10月12日、みやまドームにおいて「第24回日高郡町議会親善ゲートボール競技大会」が開催されました。

各町議会で2チームを編成し、12チームが参加しました。

他町の議員とスポーツを通じて親睦を深める機会となりました。



ケーブルテレビの議会放送映像が、9月議会分よりデジタル化となり、鮮明な画像が家庭に届くようになりました。どうぞよろしく。

かつて、テレビの電波がアナログからデジタルに移行した時、その画像の美しさに驚いたものです。皆さんに笑われることのないよう、もう少し身なりを整えて出席しなければと思っています。

今のところ、幸いにも大きな災害がなく、今年も秋が過ぎ去ろうとしています。

農作物はまずまずの出来だそうですが、祭りばやしは今年も聞かれず、寂しいかぎりです。「来年こそは」と期待して、お互い生活に頑張っていきましょう。

(原 孝文)